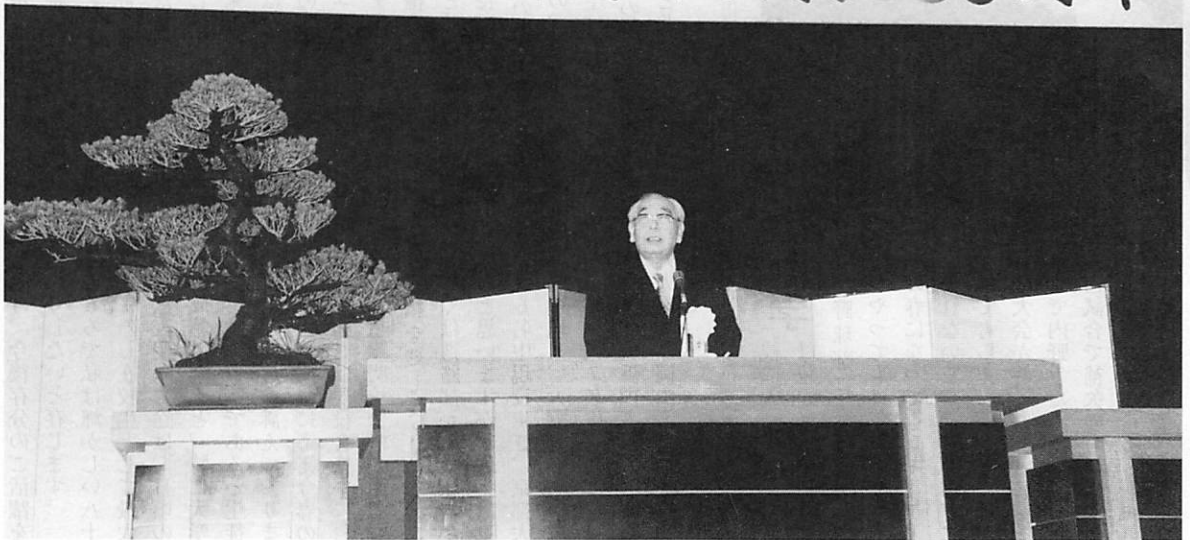


〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(0888)33-4394 FAX(0888)33-7373 <http://www.inforyoma.or.jp/tosako/>

兄 土佐中・高等学校創立80周年



ご挨拶

—学事報告を兼ねて—

学校長 森田 幸雄

この度の同窓会会報「向陽」の発刊を心からお慶び申し上げます。回を重ねること今回で早くも第四号と承知しており、関係者各位の熱意とご努力に改めて敬意と謝意を表する次第です。

さて学校も新世紀最初の新年度に入り二ヶ月余を経過、新入生諸君も順調に学校生活に馴染んでくれており、また全校的にも高校県体や中学クラスマッチ等幾つかの大規模行事を目下恙なく執行中であります。これも偏えに同窓先輩の皆様の暖かいご支援の賜物と存じ心から御礼を申し上げます。

次に昨年の学校創立八十周年に際しましては、会員各位には、募金等を含め物心両面に亘り熱烈なご支援を賜り誠に有り難うございました。特に十一月十七日の記念式典や

祝賀会を中心とする記念諸行事には多数のご参加を頂き、お蔭様で総ての行事を滞りなく、且つ成功裡に終了する事が出来ました。誠に感激の極みであり改めて厚く御礼を申し上げます。またこれを契機として振興会とも一体となつて「土佐校百年を考ふる会」と「教職員研修を推進する会」の二つの重要なプロジェクトを立ち上げて頂きました。学校と致しましてはこれらを教育躍進の比類ない好機と捉え、生徒諸君にも趣旨の理解を求めつつ全力で取り組んで参る決意ですので一層のご支援をお願い申し上げます。次に記念行事の掉尾を飾る

記念誌が当初予定より若干遅れましたがこの程上梓、お届けできる運びとなりました。編集委員各位の献身的努力の結晶とも称すべき、質量共に極めて充実した労作と思います。ご熟読頂きます様お願い申し上げます。

ところで最近の県政は、いわゆる巨額やみ融資事件や不審な審判等事件等で元副知事等が逮捕される等混乱の極みに達しております。先の某村前収入役による詐欺行為と合わせ、本県の声価は著しく低下してしまいました。全国に先駆けて政治革新や教育改革に取り組んで参つたと称する県政の実態がこれなのかと、県

民として情けない気持ちで一杯です。特に純真な生徒諸君に對し何と弁明すべきかと複雑な気持ちで致します。何とかこのあたりで心機一転本県の土佐らしい明朗豪快、しかも活力に充ちた県勢の回復を希わずにはいられません。

ただその暗雲を吹き飛ばす明るいニュースが中谷氏の入閣であります。今や人気絶頂の小泉政権を支える、そして田中外相と並ぶ目玉閣僚が中谷防衛庁長官と専らの評判であり欣快の極みであります。本県出身の、そして本校出身の大谷誕生は谷川先輩に次ぐ十年振りの快挙であります。会員各位と共に心から祝福申

し上げ、今後存分のご活躍をお祈りしたいと存じます。

ところで私は輝かしい八十周年に際し在校生として最大の祝意表明の方途は、日頃の学習成績の向上と、特に大学進学実績の飛躍であると生徒諸君の大奮起を訴えて参りました。その期待に応え今春の卒業生諸君は現役合格率にしても、超難関校合格の面でも好成績を残してくれました。詳しくは進路部からの報告があると思いますが、例えば東京大6名中現役生5、京都大7名中現5、大阪大9名中現7、神戸大7名中現4、一橋大現3、横浜国大現5、東京外大現3、岡山大19名中現16、

等々であります。また慶應大、早稲田大、同志社大等私大難関校でも昨年の実績を大幅に凌駕しております。学校としてはこの勢いを更に加速向上させるべく「一歩一歩高きに登る」を合言葉に指導体制の充実に取り組んで参る決意です。先ず各位の良きご助言ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

最後に岡村会長さん始め会員諸兄弟のご健勝と同窓会がますますの発展を祈念申し上げます。学事報告とさせていただきます。

八十周年記念講演会

二〇〇〇年十一月十六日・土佐高講堂

『夢・努力・才能・運』

岡村 甫

(高知工科大学副学長
—当時—)



中学

校に入ってから、すぐには母親の反対を押し切つて野球部に入りましたが、一年やっても二年やっても三年の春になつてもレギュラーになれないし、練習もろくにさせてもらえない。ところが、春の大会が終わったあとに、それまで内野手だったんですが、紅白試合で補欠の方のピッチャーをやったところ、レギュラーを抑えてしまいました。

そのレギュラーというのは五年連続優勝のチームですが、それが補欠のチームと試合をして、延長戦になって、結局補欠の方が負けたんですが、その結果ピッチャーになったのです。

ピッチャーになると、野手と違って時々試合に出してもらえる。試合に出ると、案外打たれなくて勝つ。三年の夏の大会ではエースが怪我をし

てしまい、私が全部の試合に投げたのですが、ピッチャーが良くなくても強いチームです。秋の県体も優勝しました。強いチームの一員であったということが、私にとって運が良かったことです。

身長が一五〇センチ以下でチームが一番低い、一番足が遅い、一番肩が悪い、一番打てないということで、全く野球の才能はない、というのが私の特徴だったので。ところが、なぜかピッチャーとしての何かの才能があったんだと思います。

中学三年の時に、富田先生が監督でしたが、私をピッチャーにしていたことと、高校三年の時に大嶋校長先生を通して溝淵監督が私を野球部に戻してくれたこと、それが人生を変えました。また、吉田さんというキリスト教の神父さんが高知におられまして、その夫人が東大野球部と親しくて、私が高校の時に野球をやっているということが伝わり、私は大学では野球をやるつもりはなかったのですが、工学部の先輩の鈴木武春

さんがわざわざ高知にお見えになり、大学で野球をやるように勧めていただきました。それで野球をやることになりました。というふうには、私の人生は、自分がやるうとは思わなければならない、周りの人の勧めに従って自分の道が変わってきたような気がします。

才能

と努力の話と、運の話をしたと思います。才能というのを見いだして長所を伸ばすのが指導者の役割である、ということですから、努力と運というのは努力の質と量で評価をすべきです。質を上げる方法を会得するのが重要です。進歩というのは、努力と才能の関数です。同じ努力をすれば才能のいい人が進歩が速い。ただし、努力には中味が大事。例えば勉強を十時間する人と、五時間する人がいたとします。十時間した人が努力をしたとは私には言わない。どういう努力をしたか、ということによって結果がものすごく変わってくるからです。努力は質が大事だということです。努力は質と量のかけ算ですから、質を

二倍にし三倍にすることは簡単にできません。量を二倍三倍にすることはほとんど不可能に近い。ですから諸君はぜひ一人ひとりが工夫をして、いろんなことに對して質を上げる努力をしていただきたい。

最後に運ですが、運は「誠実と忍耐」、これだけを頭に置いて下さい。運というのはやはり忍耐が、我慢が必要ですし、誠実さがないと運がまわってきた時にそれがつかめないと思います。

たいていのものは、努力をしても最初は成果があがりません。ここは我慢が大事なことです。その時に夢とか何かがあると、この間を我慢できるのです。そうすると、ある時から成果が急速に上がってきます。そして上にいくとそれから先、今度は努力してもあまり伸びない所に來ます。最後のところはもの凄いいネルギーを投入しないと、もうちょっとが上がれません。しかし一人一人ずつ、ある時に一つぐらいいはそういうものを持てれば、それがその人の特徴になります。私は野球を通して身をもって体験しました。

皆さんも、何か自分の特徴を活かしていけば、世界一になるとか日本一になるとかではなくても相当のところには必ずいます。何か才能をそれぞれ持っているはずですから、それを活かして下さい。

諸君

に、少し大学の話をさせていただきます。今、大学が転換期に來ています。それは従来、大学は研究中心の大学しかなかったのです。ところが現在は、大学が次の三つのどれに進むか選択を迫られています。「教育中心の大学」「研究中心の大学」「研究と教育の両方をやる大学」の三つです。

私は工学部にいましたので、その話をしますと、工学部あるいはは工学系の大学と企業との関係が大きく変わってきています。今までは「大学の教育をあてにしない、大学なんか教育はしてもらわなくて結構です」と企業は言っていました。企業が素材を受け取つたら、自分たちで好みの形に仕上げますから、大学が変な色をつけなくて下さい、というのが従来のやり方でした。

したがって素材ですから偏差値のいい大学から取ります。それを自分たちで好みにしますから、大学のブランドが意味を持つていたのです。ところが、「大学でしっかり何かを持ってから企業に來てほしい」というふうに変わりはじめています。そして企業から見ると、大学の評価よりも、大学でどんな先生がどんな教育をしているかという評価に変わりつつあります。というより、学生がどんな学生かというのに変わっていつています。

諸君は大学の研究室の状況をインターネットで見ることが出来ます。どこの大学でどんなことをしているか、というところに行きたいか、ということをよく調べて大学に進学してほしいと思います。

ぜひこれからの情報化の時代を、諸君も自らが自分で考えて、探して行ってほしいと思います。そして夢を持つて、いい質の努力をして、自分の持つてある才能を伸ばして、運に恵まれれば、必ず自分の夢が実現すると思います。がんばって下さい。

八十周年記念式典

二〇〇〇年十一月十七日・土佐高講堂

式典は多数の来賓、振興会・同窓会の役員・会員を迎え、執り行われた。簡潔ではあったが、二十一世紀を迎える節目の年に八十年の歴史を振り返り、来る百周年に向け力強い一歩を踏み出した日でもあった。

■理事長式辞（宇田耕也）

ここ二十年、世の中は激しく変動し、地球規模で世界が大きく変わってまいりました。中でも価値観の変化は大きく、すべての根底をゆるがせております。土佐高も単なる進学校というだけでは次の時代を生き残れません。

そんな中、同窓会・振興会にも力をお借りして、二つのプロジェクトを発足させたいと思っています。ひとつは百年委員会といって、新しい時代に対応していくための教育理念・方向づけ・方針等を確立しようというものです。もう一つはヴィジョンが決まればそれを実行し現実化していくことです。先生方には研修や勉強・リフレッシュも必要で、そのための金は理事会直属の委員会で配慮していこうと思っています。

百年の時には次の方にバトンを渡しているはずなので、

私たちの願いは、貴方がたに在校生である間は生徒として卒業してからは同窓会員として我々が作るうとしてしているヴィジョンに力を貸してほしいということです。

■学校長式辞（森田幸雄）

この八十年の校史は順風満帆ではありませんでした。特に大戦末期の戦災による校舎焼失と敗戦による混乱の中、学校理事・教職員・在校生・保護者会・同窓会が一丸となって再建に取り組み、苦難を乗り越え、今日の安定を迎えることができたのであります。

この努力を支えてくれた市民県民の皆さんの暖かい声援と異例とも思われるご理解が、本校を蘇らす力強い支えとなつたのであります。このことに今改めて感謝申し上げます。希望に満ちた二十一世紀を目前に土佐校スピリットを盛大にかきたてつつ創立当初の理念を体して、勉学とスポー

ツの両立を促すとともにより幅広い人間性の涵養を目指す教育の徹底に全力で取り組んでいきたいと存じます。

■高知県知事祝辞

「報恩感謝」を礎とする建学の精神を遺憾なく發揮し、本県教育の向上を果たしてきた土佐校の役割は大変大きなものがあります。二十一世紀を目前とした今、新しい高知や日本を支えていく若い力の養成に、今後とも全力をあげて取り組んでいただきますことを期待しております。

■高知市長祝辞

高知市は「ひと・まち・みどり」が輝くふれあい中核市」を将来の都市像に掲げ、二十一世紀にむけて新しい街づくりに取り組んでいるところであります。そうした取り組みの基礎になるのが人材の育成であり、土佐校の教育活動がさらに充実されるようご期待申し上げます。

■同窓会会長祝辞（岡村甫）

我々の思いはただ一つです。ここで学び、ここから巣立って行ったことを大変誇りにしております。

また、同窓生としましては、諸君がかわいいてしようがありません。これからも心より諸君の成長を望んでおります。九十周年、百周年と良い後輩たちが続々と出てくるよう念じてやみません。そのためには、我々同窓生は物心両面にわたって協力をして参りたいと思っておりますので、大いに活用して下さい。

八十周年の記念にあたりまして、祝辞とともに諸君に期待すること大であることを改めて申し述べ、同窓生の思いを諸君に、また学校の先生方に伝えたいと思います。

■振興会副会長祝辞

（杉本雄一）

高知県の出生者数の急激な減少により優秀な生徒の確保

が難しくなっており、また公立学校の教育改革により本校は大きな影響を受けることでしよう。本校が更なる飛躍を遂げるために関係者の一層の努力が必要です。このことを学校関係者の皆様にお願いたします。また、家庭の教育責任をよく自覚し、学校との教育体制を今後一層濃くしていくことをお誓いします。

■生徒代表祝辞（西村明宏）

この土佐校で多くの方々が生徒が学び、社会で目覚ましい活躍をなさっていることを聞くたびに土佐のすばらしさに感銘を覚えます。自由な校風と文武両道をモットーにしてきた先輩方の教え・伝統を存続させていくことが私たち在校生が再認識すべきことだと思えます。皆が土佐校での学校生活がすばらしかったと言えるように、伝統を踏まえながら新たな伝統を積み上げていくことを誓います。



祝賀会

十一月十七日(金)午後五時より
高知新阪急ホテル



祝賀会は準備段階から同窓会本部役員の方々にお世話いただき、記念式典には公務のため出席できなかった橋本知事をはじめ来賓・旧職員・振興会に加え、平日にも関わらず同窓生も県内外から百名ほど駆けつけて下さり、教職員ともども八十周年の良き日を祝うことができました。会場には懐かしい写真パネルも展示され、思い出話がはずんでいました。

司会は60回生の濱田亜弥さん(KUTVアナウンサー)、お話しは34回生の細木秀実さん・小川泰助さん・岡内紀雄さんが引き受けて下さり、華を添えました。21回生の宮地貫一さんの乾杯の音頭、51回生板東真砂子さんの新聞記事を引き合いに「流れを変えるのは教育だ!」で宴の幕開け。あちらこちらで同級生、恩師を交えた輪ができ、楽しいひとときを過ごしました。

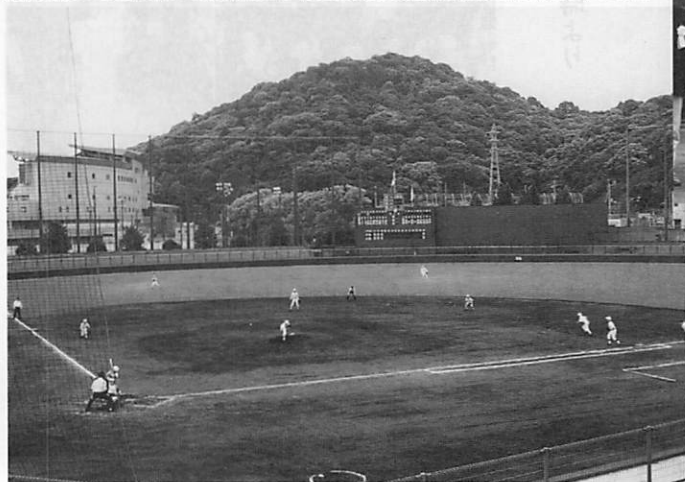
応援歌・校歌は39回生安岡範悦さんの出番。エールで最高潮になったところで、岡内幹事長の「二十一世紀の世界にはばたけ、土佐中・高等学校は永遠に不滅です」と、力強い閉会のことばでひとまず「中締め」。(岡田谷典)





バスケット招待試合

愛媛県の久米中学（全国大会ベスト8）などを迎え、2日間にわたって行われた。全勝対決となった久米戦、善戦するも力およばず。



野球部招待試合

観音寺中央高校と片島中学校を迎えて行われた。

セレモニーでは籠尾元監督に感謝状が贈られた。



一般生徒から原稿募集!!
 その中から土佐校文芸大賞作品を選び、「筆山」に掲載すること。そのためのポスターを制作し、部員は原稿を書き始めた。これが十二年の四月のことである。さらに全教職員、卒業生にも呼びかけ、バックナンバー「筆山」第1号（昭和25年）〜第76号（平成11年）の目次と奥付けをパソコンに入力することも開始した。

夏休み明け、一般生徒からの原稿は十三点集まり、それを部員及び顧問で読み、大賞一点、佳作十二点とし、全作

特活部の呼びかけ「創立八十周年の記念行事に文化部も参加しよう」にいち早く声をあげた文芸部は、部長（高二の島裕）のもと、次のような提案が出された。

品を掲載することに決定した。十一月には文芸部O・Bの原稿も二点寄せられた。全ての原稿は経費節約のため、部員によりパソコンに入力された。表紙は中一の岡本諒の版画と決定。

内容は次の通りである。

- 小説 十一人（部員）
- 詩 二点（部員）
- 土佐校文芸大賞応募作品 大賞（評論部門）
- 窓のそとのそのまたむこう 比名祥子（高二）
- 佳作（小説部門）二点
- （ショート・ショート部門）三点
- 寄稿 ソフトボール雑感 桧垣則男（38回生）
- 文芸部の思い出 岡崎和明（39回生）

頁数 二二〇頁／発行部数 三〇〇部／価格 一五〇円



文芸部機関誌

筆山 七十七号 発行

文芸部顧問
 門田 美和
 (38回生)



創立八十周年記念誌

『冠する土佐の名に叶へ』

編集後記より抜粋 三浦 浩二

長いトンネルをやつと抜け出すことのできた解放感の反面で、出口を目指して急ぐあまり、途中で落としてきたた

自然消滅となつてしまった。創立八十周年を控えた平成

十一年の十一月末、記念事業

のための校内組織を編成する

会が招集された。74回生を送

り出してフリーの立場であつ

た私は、幻に終わった『七十

周年記念誌』の責任を取らさ

れる形で、西峯隆博・岡田容

典両先生を中心とする編集委

員に加えられた。責任をとら

されるなら同罪と土居徹・小

島哲雄両先生、さらに来るべ

き九十周年、百周年を視野に

入れて、楠目博之・島内麻千

子・西尾小和・手島光司の諸

先生にも加わっていた。だ

き、総勢九名で記念誌編集委員会

が発足したのが昨年一月のこ

とである。

『八十周年記念誌』の位置

付けとして、まず次の三点を

確認した。過去本校は『四十

周年記念誌』『五十周年記念

誌』を発行しているが、『学

校史』の内容を持つものは実

質的に『四十周年記念誌』

(一九五九「昭和34」年まで

記述)のみの状態で、以来、

長期間にわたり記録類のまと

めをすることなく経過してき

た。そこで今回の『記念誌』

は、①『四十周年記念誌』の

内容を補充し、さらにそれ以

降の記録類のまとめを付加す

ること、②将来のより完全な

『学校史』の制作に向けて資

料の収集・整理体制を開始し

ておくこと、③それらを通じ

て、本校のこれまでの教育活

動の点検・反省と、将来の発

展に資すること、である。そ

こから、特に③の「将来の発

展に資する」ことに編集の重

点を置いて内容構成を考えた。

同窓諸氏から本校の今後のあ

り方についての貴重なご提言

をいただいた特集「これから

の土佐」は、こうした方針の

産物である。また、本校の第

二の出版は、一九四七(昭和

22)年の「男女共学」のスタ

ートに求めることができる。

女性の社会進出が顕著な今日

の状況をも踏まえ、全国にさ

きがけて「男女共学」を採用

し、以来諸分野で活躍する多

数の女性を輩出させてきた本

校のそうした先進的な流れを

継承・発展させるためにも、

女性の視点から「これからの

土佐」を考えようとしたもの

が、もう一つの特集「女性の

視点から」である。なお、

「これからの土佐」にご提言

をいただいた方々の中に結果

的に女性が一人もおられない

が、これは決して編集委員会

の意図ではないことをお断り

しておく。また、皆様から御

多用の中でいただいた原稿や

座談会でのお話であるが、紙

面の都合から修正や削除をお

願いましたものも多い。失礼を

お詫びすると同時に、心から

の感謝を申し上げます。

向陽祭当日(二月三日、四日)「筆山」は二四〇冊販売された。近來にない販売冊数である。

計画から販売までわずか十名(内六名は中学生)で、ここまでなんとかこぎ着けることができました。特活部長をはじめ、行事委員会の先生方の後押しがあったことも嬉しいことでした。その後卒業生からバックナンバーのミス等の指摘や励ましの手紙も戴きました。また県下の文芸部全体の活動を広く県民に知らせべく高知県立文学館へ各校の機関誌を置こうという会合も三月にありました。本校にとってもいい機会だと準備を進めていましたが、提案者の先生が転勤のため棚上げとなっています。しかしこのような会合に部員が積極的に参加できたことは、この記念誌刊行によるところが大きかったと思います。

最後になりましたが卒業生の方々がとうございました。次回もよろしく御願致します。

足元委員会 百年委員会 TSL委員会

森本 堯士
浜田 俊充

昨年度の本校創立八十周年記念行事・記念事業につきましては、同窓会員の皆様には物心両面に渡りご支援を頂き、真に有難うございました。

六月十四日の記念誌の発行をもって一応完了しましたが、また本校の将来に関する大きな宿題が残されており、それは、一昨年度の記念事業等実行委員会（学校同窓会、振興会代表）において、八十周年単年度の事業だけでなく、今後の土佐中高の発展を期して「土佐中高百年を考える会」の立ち上げと「教員研修基金の創設」の提言がなされました。その後の理事会・評議員会で「百年委員会」と「TSL委員会」(Teacher's Study Leave program)により継続して考えていくことが了承され、委員としては以下の方々にお願いをして発足しました（委員は漸次拡充の予定です）。

百年委員会（百周年を旨指して、土佐中・高のあるべき姿を求めらる）

会長／岡村 甫(32)

委員／宇田耕士(宇田家)、川崎

康正(42・川崎家)、国見直樹

(44・振興会)、岡内紀雄(34)、

西山彰一(48)、武市智行(49)、

羽方将之(38)、中谷 元(51)、

市川直介(53)

本校教員／森本堯士(32)、小村

彰(49)、島内麻千子(60)

TSL委員会(理事会直属・教員

研修プログラムの運用)

会長／宮地賢一(21)

委員／森田幸雄(校長)、野崎り

つ(振興会)、森本房恵(39)、森

木將雄(32)

本校教員／浜田俊充(35)、河野

浩(34)、山本浩文、門田美和

(38)、矢野泰久、三浦浩二(45)

そして、二〇〇一年一月三十一

日に宇田耕也氏(理事長)、川崎

幾三郎氏(理事)も交え「百年委

員会・TSL委員会合同会」が開

かれ、今後の会の進め方等につ

いて話し合いが持たれました。校舎建

築も見据えた資金問題、教育のあ

り方、情報発信の必要性、研修計

画、組織等を早急に考え、学校、

振興会、同窓会三者の意見を取り

入れて協力体制をつくることなど

が確認されました。また、次会か

らは各委員会に分かれ討議するこ

第一回 百年委員会

三月十三日

土佐高校会議室

土佐中・高創立百周年に向

けて、本校のあるべき姿を求

め考える会との主旨で委員を

当面二つのグループに分け、

ハード面(建物、施設等)と

ソフト面(教育内容、カリキ

ュラム等)をそれぞれ中心課

題とすることにしました。ハ

ード面に取り組むグループは

宇田耕士、川崎康正、中谷元

岡内紀雄、西山彰一、森本堯

士、ソフト面のグループは岡

村甫、国見直樹、市川直介、

武市智行、羽方将之、小村彰

島内麻千子となりました。そ

して八月四日に開催予定の第

二回会議には一歩進んだ議論

が行なえるよう、それぞれの

グループがそれまでの成果を

持ち寄ると云うところまで合

意しています。

その後、各グループの校内

の動きは、まずハードの方で

は機会があつて訪問しました

金蘭千里高・中学校、大阪星

光学院中・高等学校からは現

行の資料をもらつて来てくれ

と南高校(十四年度開校の公

立中高一貫校)を視察し、情

報機器類の施設状況等も含め

た資料の収集に努める予定で

す。

一方、教育の内容・カリキ

ュラム面については、将来に

つながる第一歩たる十四年度

からの新指導要領と完全学校

週五日制への本校の対応をめ

ぐつて、全教員の熱い議論が

続いております。「新カリキ

ュラム・五日制を考える委員

会」の週一回の定例討議、夏

に教科会での討議をふまえて

の委員会討議等々です。これ

は将来の本校のあるべき姿や

行事の見直しをも含めた学校

運営全般にも大きくかわる

問題です。ここは一つ建学の

精神に立ちかえり、学びの本

質たる自主自律、自学自習で

きる子供達にどう育てるのか、

その為に教員自身が高まり深

まる努力は何処にあるべきか

等々の真剣で息の長い議論が

為されるべきと考えています。

第一回 TSL委員会

三月十三日

土佐高校応接室

生徒の学力、資質の向上を

容・教授法等だけでなく、広

く社会の動向に触れることの

重要性が指摘されました。そ

の上で次のような内容の話し

合いがなされました。

①資金問題。学校の研修予算

に振興会、同窓会も協力しそ

れぞれが醸出。細目、方法等

は今後検討。

②今までの研修の実態調査。

教員自体の希望等調査(アン

ケート等)。教員から、現在

の状況の説明あり。

③教員の自己評価、他からの

評価の必要性。重点目標を出

し自己アピールの場とする。

視野を広げるための研修が必

要。

④秋までには制度的なものと、

運営方法を考える。

第二回 TSL委員会

五月二十九日

土佐高校応接室

教員からの提言等(八件)

をもとにしての討議。なお広

く意見を聞きたいので、七月

中に教員との懇談会を数回に

分けて開きたい(アンケートも

実施)。懇談会での内容は、

生徒の資質を高めるには何を

なすべきか、そのための教員



第4代同窓会会長

中島 暁 氏の思い出

片岡 博彦 (30回生)

第四代同窓会会長中島暁氏(10回生)が、平成十三年二月二十二日午前一時五十五分、肺炎のため東京都青梅市の青梅慶友病院で逝去された。

東京でご静養中と伺ってはいたが、こうも突然訃報を聞くことになろうとは……。

米沢善左衛門氏の後をうけ、平成三年に退任されるまで長期間会長を務められたが、その後半を私は幹事長として会長のご指導を受けた。

高知新聞社社長秘書の山崎女士に言わせると、社長へのフリーパスは「片岡さんと、もうお一方だけ」とのことだったが、ご要職にある大先輩は勝手な後輩をいつも温かい笑顔で、「おー、よう来たのー」と迎えて下さり、サイダーをご馳走になりながら、同窓会運営その他について常に適切なご指示をいただいた。

会長ご在任中の同窓会は会員数も飛躍的に増え、全国に人材を送り出しているところから、同窓会の組織化を図られた。既に活発な活躍をしていたところもあったが、関東・関西・東海・広島・香川各支部の活動を援助・確立するとともに、本部(高知)と

の交流、支部間の交流を促進した。各支部に校章・支部名の入った同窓会旗を贈ったりした。支部の中で、特に勢いがあったのは「関東軍」と呼ばれる関東支部であり、母校の文武両面での沈滞に業を煮やして、本部は何をしているんだと突き上げられたことであつた。

昭和六十一年には学校に「本校入学志願者調査対策委員会」が設置されたのと相前後して、同窓会にも「母校活性化委員会」をつくり、あらゆる角度から活性化への方策を検討した。

「同窓会は圧力団体ではない」と常々口にされ、過激に走りそうになる私たちの手綱を引き締めておられた中島会長も、次第に実情を認識し、学校側の対応が遅々として進まぬのに大分いらだつてこれ、理事・評議員会の席などで語気鋭く意見を述べられたこともあつた。普段あまりものを言わない会長の発言は、威厳と迫力があつた。

平成元年には野球部が久し振りに甲子園に出場、同窓会総会が試合日と丁度重なり、急遽会場に大型テレビを何台

も用意して応援しながらの会となったのも、懐かしい思い出である。この時、中島氏は野球部後援会長に就かれています。

学校法人土佐高等学校の理事に就任されたのは昭和六十一年だった。校長としての曾我部(1回生)・松浦(17回生)両先生は別として、同窓理事第一号であつた。

昭和六十三年三月には向陽寮が完成した。これも入学志願者調査対策委員会、母校活性化委員会の提言を受けての成果であると思う。



母校創立七十周年の名簿発刊のあいさつで、中島会長は次のように述べておられる。

「同窓会では、記念事業として五年毎に発行する会員名簿の作成をはじめ諸事業を計画実施しておりますが、特に本年七月に発刊した52回生清谷知郎氏著『アルプス席の全力疾走』は、内外に大きな反響を呼び起こしました。この書は単なる回想録に止まらず、現在の土佐に求められる心、将来の土佐のあるべき姿を示唆するものであり、現教職員、在校生に贈呈すると共に、同窓各位を中心に頒布しております。同窓会出版第一号としての意義もあつたと自負しています。」

文筆家であり、マスコミ人であつた中島氏だが、同窓の立場で書かれたものが少ないのでこれも紹介させていただきます。

昭和六十年三月、第四代校長曾我部清澄先生の胸像が建立され除幕式が挙行されたが、その台座に刻まれているものである。

「科学者として令名高く／教育者としてまた非凡／母校土佐高等学校の建学精神に徹し／伝統の校風振興に献身された曾我部清澄先生の御功績を讃え／御遺徳を仰ぎ／後生一同ここに胸像を建つ」

中島 暁 撰

平成十二年には母校が八十年を迎えた。記念事業の一つとして、百周年に土佐のあるべき姿を語り合う会が発足したと仄聞する。中島暁会長はそれをどう描いておられたのだろうか――。

もう直接お聞きすることのできない世界に、旅立ってしまった。

平成十三年大学入試合格状況

文武両道



大 学 現 浪 計 進学	大 学 現 浪 計 進学	大 学 現 浪 計 進学
国 立	公 立	
北海道 2 2 4 3	東京都立 5 2 7 7	日本女子 1 1 1
帯広畜産 1 1 1 1	都立技立 2 1 1 1	日法政科 4 5 9 3
筑波 1 2 3 2	横浜市立 1 1 1 1	星薬科 2 5 5 2
宇都宮 1 1 1 1	岐阜薬科 1 1 1 1	武蔵工業 2 5 5 2
埼玉 1 1 1 1	福井県立 1 1 1 1	明治治学院 4 7 11 4
千葉 2 2 1 1	静岡県立 1 1 1 1	明治薬科 1 1 1 1
東京 5 1 6 6	名古屋市立 1 1 1 1	明治薬科 1 1 1 1
京外語 3 3 3 3	京都府立 2 2 2 2	立教 2 4 6 1
京学芸 3 2 5 5	大阪府立 1 1 1 1	早稲田 21 10 31 15
京農工 1 1 1 1	神戸市立 1 1 1 1	早稲田 1 1 1 1
京工業 2 1 3 3	神戸工業 1 1 1 1	神奈川 1 1 1 1
一橋 3 3 3 3	岡山県立 1 1 2 1	関東 1 1 1 1
横浜国立 5 5 4 4	広島市立 1 1 1 1	帝北 1 1 1 1
信州 3 3 3 3	下関市立 1 1 1 1	中野 1 1 1 1
岐阜 1 1 1 1	高知女子 2 2 2 2	藤田保衛 1 1 1 1
静岡 2 2 2 2	北九州 1 1 1 1	京都産谷 1 1 1 1
名古屋 1 1 1 1	九州歯科 1 1 1 1	同志社 15 7 22 4
京都 5 2 7 7	計 15 14 29 23	立命館 21 11 32 9
都工織 2 2 2 2	昨 年 17 6 23 18	龍谷 1 1 1 1
大阪 7 2 9 9	私 立	大阪経済 1 1 1 1
大教育 2 2 2 2	酪農学園 1 1 2 2	大関 3 1 4 1
神戸 5 2 7 4	自治医 1 1 2 2	関西西語 9 12 21 4
岡山 16 3 19 18	青山学院 3 6 9 2	関西西語 8 7 15 6
広島 2 1 3 3	亜細亜 2 2 2 2	近畿西語 10 10 20 4
山口 2 1 3 3	学習院 1 1 1 1	甲南 5 2 2 1
徳島 5 2 7 6	北里 1 3 4 1	神戸学 1 5 5 2
愛媛 2 2 4 4	慶應義塾 18 4 22 9	神戸薬 2 2 2 2
高知 11 8 19 13	国学院 2 1 3 1	松山 2 7 7 4
九州 4 6 10 10	芝浦工業 1 1 1 1	福岡 1 1 1 1
大分 1 1 1 1	上成専修 6 1 7 3	計 12 8 20 4
宮崎 1 1 1 1	拓殖 2 2 2 1	昨 年 231 152 383 127
熊本 1 1 1 1	東海 7 6 13 6	昨 年 209 173 382 145
	東京工女 2 1 3 3	
	東京電機 3 3 3 1	
	東京理農 14 7 21 5	
	東京理邦 1 1 1 1	
	東洋 1 1 2 1	
	日本医科 2 2 4 3	
計 96 45 141 124		
昨 年 92 44 136 124		
		短 大 2 1 3 2
		大学校専門学校等 12 2 14 11
		総合計 356 214 570 287
		昨 年 329 220 549 294

平成13年度 クラブ活動の記録

高校県体

- バドミントン… [男子] 団体：優勝 (2年振り14度目の優勝)
[女子] 団体：ベスト4 / 個人複：2位 / 個人単：2位
- 水 泳… [男子] 対校得点：1位
50m自：1位・2位 / 100m自：1位 / 200m自：1位
400m自：1位 / 200m平3位 / 200mバタ：2位
200m個メドレー：2位 / 400m個メドレー：2位・3位
400mリレー：1位 / 800mリレー2位 / 400mメドレー：2位
[女子] 50m自：1位
- 陸 上… [男子] 対校得点：2位
100m：1位・2位 / 200m：1位・2位・3位
400m：1位・2位
110m障害：1位 / 400m障害：1位
400mリレー：1位 / 800mリレー：1位
走り高跳び：2位 / ハンマー投げ：1位・3位
- サッカー…2位
- ハンド… [男子] 2位
- テニス… [男子] 団体：2位 / 個人複：3位
[女子] 団体：2位
- 登 山…3位

- 自転車…3kmインディヴィデュアルパーシュート1位
スプリント：3位 / ポイントレース：3位 / ケイリン：3位
オリンピックスプリント：2位
4kmチームパーシュート：3位
- その他…ソフトボール2回戦で土佐はノーヒットノーランを達成 (ピッチャー：高根)。

四国大会

- 陸 上… [男子] 400mリレー：1位 (四国高校新)
1600mリレー：1位 (県新)

中学市体

- バスケット… [男子] 優勝 (新チームになって公式戦負け知らず)
- テニス… [男子] 優勝
- ソフトボール…2位
- ハンドボール… [男子] 2位
- 陸 上… [男子] 低学年100m：1位 / 400m：1位
低学年400mリレー：1位 / 800mリレー：1位
- 柔 道… [男子] 90kg級：1位 / [女子] 57kg級：2位
- 水 泳… [男子] 対校得点：3位

前略 御家族殿



立命館大・理工
岡田 晋典
(76回生)



五月十四日発信

学内では、全学生、教職員に学内ネット専用のメールアドレスが配布されている。学内から学内の人間当てるメールは、特別な手続き無しでできるのだが、学外との電子メールはちょっとした手続きが要る。その申請をし、この間、登録完了通知がきた。そのアドレスは学内用と同じもので、学生の場合、四月に配布されたアドレスは卒業するまで変わらない。このメールがそうである。

鳥人間コンテストの書類選考に合格し、回生を問わず、皆気合いが入りまくっている。今、前縁班に配属されている。翼の前の端を作っている。一見簡単そうではあるが、特注の発泡スチロールの切断にたどり着くまで、切断用の木型作りや発泡スチロールの固定

この間の土曜日は、琵琶湖の湖畔で焼肉。天気も上々、というよりむしろ暑く、そんな青空の下で飲むビールはまた格別！絶好の天気とのどかな空気とコンロの炭火がこの上ない調味料だった。その後すぐにボウリングに直行。充実した休日だった。

意外と食費がかさんでいる。食事は学生食堂中心。鳥研前縁班定休日(班別に定休日が異なる)は寮でボリュームたっぷりの夕食。作業日は部員のほぼ全員がわいわい言いながら食堂に押しかけていく。だいたい一食四〇〇〜五〇〇円だが、朝抜きの日は六百円弱ぐらいになる。安く食べようと思えばできないこともないが、いつもそうでは飽きがくる(安いものは種類が少ない)。安いと思っていた食堂は毎日だと高い。毎月二十日は寮費納入日であるので、近日に、寮費分二万円を引き落とす。三ヶ月分の定期を買ったとき以来だが、貯金は残り一桁になる。ご了承願いたい。今度引き落とししたら、来月から奨学金が入るので、四月、五月ほど頻繁に仕送り分を使うこともないはず。生

活費と遊びも込みで、月八万なら生きていけるといのが今のところの計算だ。GWに帰省したときにもらったお金は帰省の交通費、飲み会費、定期代、食費に消え、あと残金は五千円である。おろしたお金はバスの定期、もらったお金はJRの定期に使った。どちらも七月いっぱいまでの三ヶ月分。とりあえず、夏までの主な交通費はすべて払ってある。

五月二十五日発信

相変わらず忙しい日々が続いている。大学生は暇だらけといったのはどこのどいつやと思っているのはどうやら一人だけではない。周りの人間も結構充実した日々を送っている。

今度の月曜の専門科目、電気電子工学入門でプレゼンテーションがある。五十人のクラスを八つの班に分け、各班が自分たちの手で本やネットで調べ、さらに自分たちの手でA4に二枚分の資料を作成して発表する。テーマは電気電子工学にちなんだものを各班の希望にできるだけ添うように与えられる。そういうわ

けで、ここ数日の昼休みは図書館に入り浸ってネット上で資料をかき集め、夜中に自分のパソコンで要約したり編集したり、あるいはメンバーの作った資料を合成したりしている。今回分かれた班は、これからのプレゼンテーションですつとお付き合ひし、さらに二回生から始まる実験科目での班になる。

所属している班に与えられたテーマは「電気自動車」。このテーマを希望した「同業者」がいるので、普通とは違った側面から電気自動車を調べている。その名も「電気自動車」のデメリット。いいこと尽くめのように見える電気自動車の欠点や難点を見つけ、その対応策を調べたり考えたりしている。このプレゼンテーションを評価するのは同じクラスのほかの班。資料の構成や主題の明確さ、説明のわかりやすさなどを見られる。上位四班までが入賞となっており、狙うは当然第一位である(我ながら話し方、説明のしかたには自信がある)。また何かあれば連絡する。





振興会の 現況と活動

会長 国見 直樹

同窓会の皆様、昨年土佐中学、高等学校創立八十周年記念を迎えられて誠にめでたうございます。

伝統の重みをひしひしと感じた次第でした。

その学校に子弟を通わせる保護者の一人として、誇らしい気持ちでいっぱいでした。

昨年四月より振興会を託されました。一年が過ぎました。八十周年記念が一番大きな行事でしたが、八十周年を迎える事により土佐高が今後迎える百周年を見据えた、百年委

員会、また教員の資質向上のための、教員研修委員会(TSL委員会)が、学校、同窓会、振興会のメンバーで委員が構成されまして、現在活動をはじめており、その活動に寄与すべく振興会は資金援助をさせていただく予定です。

会長としては、高校卒業式に祝辞を述べさせていただきます。その後の謝恩会にもお招きを受けました。また中学入學式の後に、総会を執り行いました。例年の進学活動として進学

講演会を企画し、広報活動として広報誌を発刊させて頂いています。

生徒たちは卒業すれば総て同窓会員となりますし、保護者にも同窓生がおられます。同窓会の後押しなしには学校活動はありえません。現在子弟が在籍していても同窓生の一人一人に学校に関心を持っていただき、今の学校を支えていただければ、これほど振興会とすれば心強い事はありません。冠する土佐高を守りたいと願っています。

振興会役員名簿
(平成十三年六月)

会長	国見 直樹
副会長(広報)	杉本 雄一
副会長(進学)	野崎 りつ
副会長(総務)	浦田比奈子
監事	毛山 章
監事	西山 忠孝
評議員	山本 志雄
評議員	大黒 英世
評議員	北村恵美子
評議員	大島 仁
顧問	小谷 匡宏
顧問	高野 嶺子
事務局	千頭 裕

関東支部

幹事長 市川 直介

(53回生)

「日本の未来に挑戦します」

これは、防衛庁長官に就任された中谷元(51回生)氏のホームページトップに書かれた言葉です。現在、経済界は金融、メーカー等あらゆる業種で世界規模で再編が激しく行われています。また、日本の政治も変革が求められ、タブーだったことも官僚を巻き

込んで流動化しそうです。教育現場も同様です。このような時代においては、夢を描きその実現に向かってチャレンジ・努力している者と、単に過去の伝統、資産を食いつぶしている者との差はどんどん開くように思います。土佐校も是非未来の夢を描き、それにチャレンジしていただきたいものです。そして、同窓会

としても、同窓生の懇親を深める場を提供するとともに、土佐校のチャレンジをサポートする体制を整えていきたいものです。今年、本部役員

の改選期です。本部にも変革が訪れるか、どんな人選、組織となるか、関東支部は他支部とともに関心を持ってみています。

平成十三年六月七日(木)

に開かれた一木会(関東支部では毎月第一木曜日の夜、銀座の土佐酒蔵で宴会をしています)に、中谷元氏が忙しい公務の中を駆けつけていただきました。長老や新卒業生等約五十名の土佐校同窓生が出席していました。その中、筆

山会の吉澤会長がお祝の言葉と乾杯を行い、中谷元氏が

「日本の未来に挑戦する」抱負を彼の人柄にふさわしく実直謙虚にしかも笑いを誘いながら語られました。そして、懇親を深めた後、宮地貫一支部長がすごい激励を一言で決め、中締めとなりました。が、居残り組は深夜まで飲み続け最後には店の中で土佐校歌を斉唱しエールを切つて終わりました。実に、土佐っ子らしい酒宴でした。

また、六月二日(土)には、オリンピック記念青少年センターで、関東支部総会及び大懇親会を行いました。今年、

支部だより



優勝は「川の流れるように」を歌われた佐々木泰子さん（33回生）でした。

NHKの芸能番組部エグゼクティブディレクターである島田源領氏（41回生）に、芸能番組製作の裏話や苦労話を講演していただきました。さらに、同ディレクター監修の下、大懇親会での自慢歌合戦を世代別に行いました。鐘が少ししか鳴らなかった人、たくさん鳴った人も、普段のカラオケの成果を充分に発揮していました。

今回は、新卒業生（76回生）約四十名を含む約二百八十名

が出席し、また学校からは浜田教頭、矢野先生、正木（宏）先生の現役の先生や既に退職されている中沢先生、正木（哲）先生、三枝先生、平岡先生に上京していただき、のど自慢大会の審査員等をしていただきました。毎年忙しい中、先生方に関東支部総会に参加していただき、本当に感謝しています。今後とも、よろしくお願いたします。

東海支部

内田 順子
(35回生)

(35回生)

東海支部では、二〇〇一年五月二十六日、支部総会を、大高坂秀雄支部長（31回生）のもとで開催しました。いつもと違う土曜日の昼間ということ、かなり以前に、南穀一事務局長（37回生）から開催のお知らせを発送。この会合を優先された方も多く、出席三四人と盛況でした。

土佐高教頭森本堯士先生、本部副会長長川崎康正さん、関東支部事務局長長鶴和千秋さん、関西支部幹事長竹下和夫さん、香川支部幹事萩野友康さん、広島支部支部長沖修一さん、広島支部事務局長山崎迪子さん、お忙しいなかご出席いただきありがとうございます。校章のえんじ色鮮やかな東海支部の旗のもと、学校の様子や同窓会本部支部の活動の様子をうかがって、そのあとホテルキャッスルプラザの食事会をいただきながら、歓談。そしてビンゴゲーム。賞品をゲットした人も、しなかった



人もそれなりに楽しいひとときでした。

二〇〇一年は東海道に宿場の制度ができて、四百年目だ

そうです。国道1号線の街並み、旧街道のたたずまいなど現在に息づく東海道五十三次の様子が、あちこちで紹介されています。東海支部エリアにもいくつかの宿場が含まれていて、手軽にウォーキングを楽しめます。

ウナギのさばき方に二種ありますね。東京は背開き・蒸して焼く。大阪は腹開き・じかに焼く。その境界は東海道のほぼ中ほど愛知県知立市と岡崎市の間らしいです。

高知は背開きですね。腹切りはいやじやの江戸文化を受け継いでいるのがおもしろいですね。名古屋の魚屋さんに、安い中国産ウナギと並んで、四万十川産ウナギがありましたが、腹開きでした。ということ、さばいたのは名古屋人？ 名古屋には「ひつまぶし」という、最後にお茶漬けにして食べるおもしろいウナギの食べ方があります。

こんな文化の違いを楽しめるようになったら、土佐人名古屋人としては年季がはいってきちゅう、と言えるでしょうか。

関西支部

鎌田 振吉
(41回生)

高知並びに全国の同窓の皆様、ご機嫌いかがでしょうか？ いささか、旧聞になりますが、昨年十一月の創立八十周年記念行事の際は、たいへんご苦勞様でした。

関西支部では、永野支部長以下、役員人事に大きな異動はなく、活動を続けております。本年一月十三日(土)には、大阪・梅田のザ・リッツ・カールトンホテル大阪で関西支部新年総会を開催致しました。百四十名近い、多数の参加があり、盛會裡に無事終了致しました。本総会には、高知よりも多数のご来席を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。会場が、関西有数の人気ホテルであったことも、参加者が多かった原因かと分析し、二匹目のドジョウを狙って来年も、同ホテルで開催致します。日時は、従来と変わり、三月二十三日(土)午後六時半からです。年度末のお忙しい時期かとは

存じますが、同窓会と一流ホテルでの優雅な夜をお楽しみ頂ければと愚考する次第です。今春、大阪にオープンしたUSJも、なかなかエキサイティングで、見学を兼ねた総会への参加も一興です。是非、多数のご参加を、お待ち申し上げております。

さて、関西支部では、支部活動のもう一つの柱として、会報「なんぶ」を、年一回刊行致すべく頑張つてまいりました。森岡周作編集長(31回生)以下のご尽力で、最近

充実を図るべく、小生がお手伝いすることになりました。幸い、昨年から、公式ホームページ(<http://osaka-ork.org/kansei>)がスタートしており、ホームページともども、相補つて、内容の充実を図っていかればと考えております。その一つの目玉は、高

速道路網の整備により、「近くなった高知」を考えております。関西から、ぶらりと出かけて、楽しい場所・泊まりたい宿や味わいたい料理などの紹介を行っていきたいと考えております。また、逆に、最近では、高知から関西のみならず全国に発進されている商品やお店も増加しているように思います。関西で、高知を味わえる場所の紹介なども行いたいと存じます。特に、地元高知の皆様には、貴重な情報をお持ちのことと存じますので、この紙面をお借りして、ホームページまで情報をお寄せ頂くよう、お願い申し上げます。

広島支部

会計監査 沖田 道子
(41回生)

二〇〇〇年二月の支部総会で、広島支部総会は十一月に開催されることになり、二〇〇〇年度は広島支部総会は二回開催されました。ご報告いたします。

一月の総会の講演は40回生北島清彰土佐中・高等学校振興会会長をお招きして「土佐中・高等学校振興会の現状」というタイトルでお話いただきました。支部会員は母校から離れて暮らしておりますが、北島振興会会長の学校と一緒にあって母校をより発展させていこうという土佐高に対する熱い思いをひしひしと感じました。又この一月の支部総会は広島支部は学生の会費を無料とする初めての試みを行いました。それもまた支部総会としては今まで最大の五十名を超える出席者にぎやかな会でした。ただ、土佐高から一番進学者が多い広島大学が郊外の東広島市にあり、時間的にやはり出席がむつか



土佐中高同窓会広島支部総会



しいという現状もあり、学生の
大挙しての出席を今後の定
着させるのには、考えなくて
はならない課題も多いです。
又この時にはご来賓の先生の
卒業時の教え子に直接連絡を
とりました。「先生がいらっ
しゃるならどうしても出席し
なくては……」と全員駆けつ
けます。交流懇親会の他已紹

介では51回生清水齊さん、61
回生土居由美子さんのペアが
優勝しました。

十一月の二〇〇〇年第二回
目の総会は、講師を岡村甫土
佐高同窓会会長にお願いしま
した。「夢・努力・才能・運」
と題した講演は、客観的な分
析と懐かしい暖かい思いで、
野球を中心とした人生観が語

られました。弱
体東大の投手と
して四年間で17
勝。軟投型でど
ういうわけかほ
とんど打たれな
かった伝説の投
手の投手はもの
すごかった」と
評される事はな
かったのに、そ
の投球姿は度々
全国版の新聞に
登場しました。
野球の指導者と
しては大学院の
博士課程になる
時に監督を二年
間し、新治・井
手というプロへ
行った選手を抱
えながら3勝40

敗。その後、助教時代にも
二年間監督をし、それまで1
勝60敗のチームが二年目の春
には3勝9敗、秋には4勝8
敗になりました。現役投手か
つ指導者としての現場を踏ん
だ往年の有名人から直接お話
が伺えて広島支部会員は感激
しました。

岡村甫会長は「土佐高で学
んだことを誇りにしていま
す」と話され、宮田賢二氏
(33回生)は、「こういう風に
すばらしい同窓会に出られる
我々は、ある程度の時間と経
済力と余裕に恵まれて、幸せ
だと思えます。この同窓会は、
そんなにお金がなくとも地位
がなくとも卒業生というだけ
で、完全な出席の資格があり
ます。」35回生妹尾加代さん、
「土佐高で一番良かったこと
は、すばらしい友達に恵まれ
たことです。」そしてあちら
こちらで、先生と教え子の親
密な交流ぶりが見られます。
十一月総会では、高知新聞土
佐高八十周年記念特集号をみ
んなで読みながら、再度伝統
の土佐中・高で学べたことを
うれしく思いました。

香川支部

事務局長 武山 正人
(40回生)

香川支部では、この七月七
日に毎年恒例の総会・懇親会
を、J R高松駅前ホテルニ
ューフロンティアで開催致し
ました。当日は、ご多忙中母
校をはじめ同窓会本部・支部
からも御臨席を賜りまして誠
にありがとうございました。

当支部も会員数が一九〇名
程度となり、もう少して二〇
〇名の大会に手が届くところ
まで参りました。支部名簿を
作成して以来、他支部との連
携も少しづつできるようにな
り、これまで香川の地にいな
がら把握できていなかった方
も徐々ではありますが少なく
なつて来たように思われます。
また、平成十三年度の役員
改選では、新たに谷 隆氏
(38回)を幹事に迎え、どこ
かのプロ野球チームに匹敵す
るような大型補強を行いました。

ところで、最近の香川のト
ピックスとしては、やはり
「サンポート高松」のオーブ

ンではないかと思えます。新
装なったJ R高松駅を降りる
と、船の帆のあたりをイメー
ジした優美なスタイルの「全
日空ホテル」がひととき高く
目に飛び込んできます。この
ホテルの周辺「サンポート高
松」は、二十一世紀の「瀬戸
の都」を目指し、香川県や高
松市などが進めてきた大規模
な再開発事業です。瀬戸大橋
の開通により宇高連絡船が廃
止されて十三年、閑散として
いた高松港が生まれ変わら
ました。高知の皆さん、四国外
にお住まいの皆さん、帰省や
旅行の際には、高速度を利用
してぜひ一度瀬戸の都、讃岐
高松にお越し下さい。

では、最後になりましたが、
母校ならびに同窓会員の皆様
の今後益々のご発展とご健勝
をお祈り申し上げ、香川支部
からの近況報告とさせていただきます。



本部活動報告

幹事長 岡内

紀雄 (34回)

二〇〇〇年度 物故者名簿

(二〇〇一年六月一日現在)

●二〇〇〇年度総会

二〇〇〇年八月五日(土) 高知新阪急ホテルにおいて新卒75回生を含む多数の同窓生が出席して、総会・記念講演会ならびに懇親会が盛大に開催されました。

総会では、本部ならびに関東・関西・東海・広島・香川各支部の活動報告ののち、収支決算・予算が承認されました。

記念講演は、37回生で株式会社西日本科学技術研究所・代表取締役の福留脩文氏による「自然環境の復元をめざして〜津軽・下北から屋久島への旅〜」というテーマで、スライドの映像を使ってのお話から、コンクリートで固めた味気ない人工的な改修工法を改め、近自然工法によって河川の生態系を再生していく様子や、石組みを活用した屋久島の登山道の修復過程が良く判りました。人と自然の共存が重視される今日、福留さんの活躍の場が、ますます広がることと思います。

懇親会は、森田校長をはじめ多数の懐かしい先生方を交えて、サッカー部OB会の洗刺とした司会進行のもと、永年同窓会活動にご尽力いただいた本部ならびに各支部の役員の方々に感謝状を贈呈、新旧同胞、杯を交わしつつ、思い出話に花を咲かせ、応援歌を合唱、創立八十周年を迎えた母校にエールをおくりました。

●会員名簿発行

今年度は、五年ぶりに二〇〇〇年版の会員名簿を発行いたしました。同窓のみならずには現況調査や広告の掲載に多大のご協力をいただきました。誠にありがとうございます。なお、同窓会協力金(五千円)につきましても、よろしくご高配下さいますようお願いいたします。

●これからの母校

昨年創立八〇周年を迎えた母校土佐高校の更なる発展を期し、「土佐中・高の百周年を考える会」が、母校・振興

会・同窓会の三者合同で組織され、検討が進められています。なお、現在の本部役員は次のとおりです。

- 会長 岡村 甫 (32回)
- 副会長 浅井 伴泰 (30回)
- 同 大久保浩二 (32回)
- 同 森木 房恵 (39回)
- 同 川崎 康正 (42回)
- 同 岡内 紀雄 (34回)
- 副幹事長 永野 和宏 (34回)
- 同 横田 整二 (40回)
- 同 岡田 容典 (47回)
- 同 西山 彰一 (48回)
- 同 千頭 裕 (58回)
- 会計 監査 森木 将雄 (32回)
- 同 田中 章夫 (40回)

編集後記

毎年物故者名簿の中に、親しくお付き合いをいただいた先輩のお名前を見る度に痛みをおぼえます。中高

先輩は同窓会会長として永い間ご指導をいただきました。また、小松栄先輩は

旧職員	平	12	11	27	岡崎 有滯
和雄 (41)	10	1	22	森崎 叔己 (15)	
榮 (28)	12	4	12	寺尾 榮 (33)	
榮 (33)	12	5	8	小松 嘉道 (35)	
啓 (9)	12	6	27	北村 晋介 (34)	
千美 (66)	12	11	11	北川 一郎 (10)	
千美 (66)	12	11	15	浜田 啓 (9)	
千美 (66)	12	12	13	岡本 啓 (9)	
千美 (66)	12	12	13	東谷 千美 (66)	
千美 (66)	12	12	25	山本 雅彦 (6)	
千美 (66)	12	12	31	土居 俊彦 (48)	
千美 (66)	12	12	尾神 俊彦 (33)		
千美 (66)	13	1	7	安岡 恒 (33)	
千美 (66)	13	2	22	中島 暁 (10)	
千美 (66)	13	4	30	藤井 香織 (34)	
千美 (66)	13	5	5	池内 祐子 (34)	
千美 (66)	12	5	28	益弘陽一郎	

懐かしい写真・古い学校関係資料
求む！ 来る100周年に向けて、

OBの方々の貴重な思い出の写真や資料をお貸しください。撮影後には必ず返却いたします。

同窓会本部まで

は新編集委員会により編集することとなります。会員各位には、原稿依頼の節はよろしくお祈り申し上げます。

- 編集委員
- 副会長 大久保浩二 (32)
- 幹事長 岡内 紀雄 (34)
- 副 永野 和宏 (34)
- 副 岡田 容典 (47)